

経営比較分析表（令和2年度決算）

広島県 北広島町

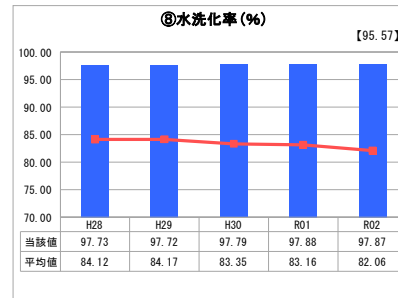
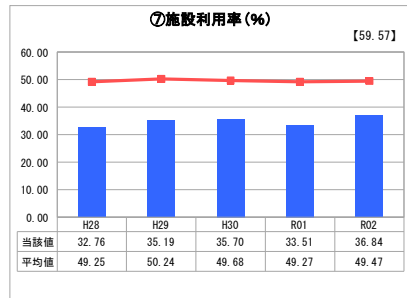
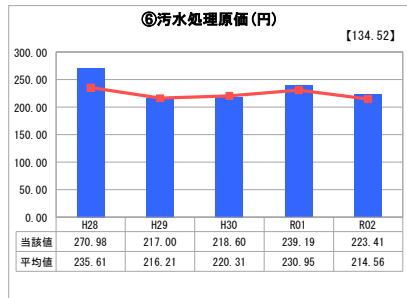
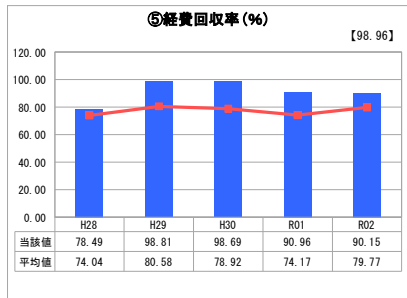
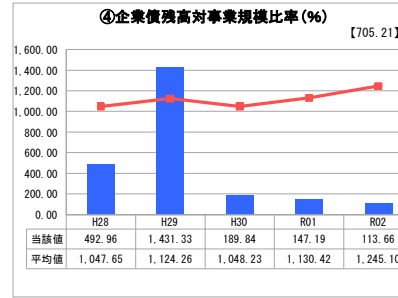
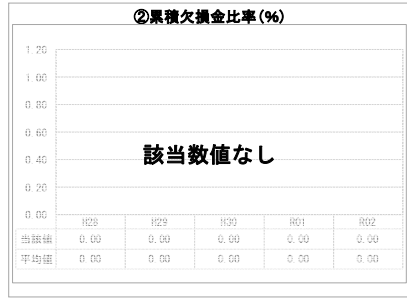
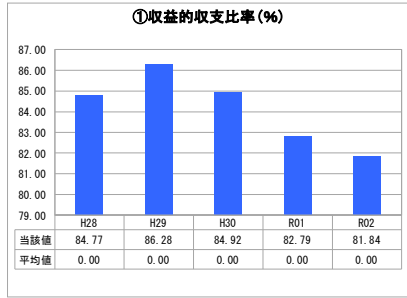
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	19.23	68.59	3,690

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,244	646.20	28.23
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,476	3.55	979.15

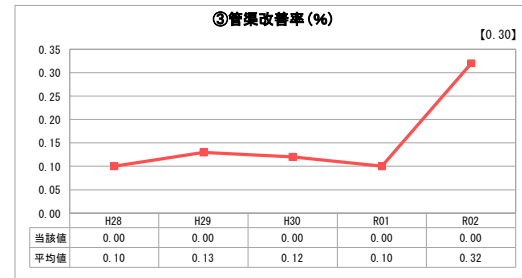
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%を下回っており、単年度収支は赤字である。総費用及び地方債償還金は減少傾向にあるものの、総収益は直近5年間は、平成29年度をピークに減少し続け当該比率は低下している。今後は単年度収支赤字縮減に向けて経営改善に取り組んでいく必要がある。

④企業債残高対事業規模比率のH29当該値は1,431.33%となっているが、正しくは226.57%である。企業債残高対事業規模比率は地方債現在高とともに順調に減少している。類似団体と比較してみても、平均を大きく下回る結果となっているが、これは地方債現在高のうちの一般会計負担額が占める割合が大きいことが要因である。

⑤経費回収率は、100%を下回っており、単独経営が行われている状況とは言えない。また、他会計繰入金金の割合が高いため、使用料収入の見直しや汚水処理に係る経費削減など、安定した経営が継続できるように取組を早急に進めていく必要がある。

⑥汚水処理原価は昨年度と比較して減少となった。類似団体平均と比較してもほぼ同程度の数値となっているが、施設の老朽化や人口減少による有収水量の減少を踏まえ、更に効率的な汚水処理を実施することで経費削減を行っていく必要がある。

⑦施設利用率は、ほぼ横ばいで推移している。類似団体と比較しても平均を下回っており、施設の効率性の面では、適正な施設規模とは言えない数値である。施設の処理能力を活かしながら運営の効率化等を検討していく必要がある。

⑧水洗化率は100%に近い数値で推移している。類似団体と比較しても、平均を大きく上回っており、引き続き水洗化率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

③現況では、法定耐用年数を超える管路は出ていないが、施設の老朽化が進み不明水等の増加に繋がることが懸念される。今後は事業費の平準化に向けた対策をとりながら、適正な時期に適正な管路更新を実施する計画的な資産管理を行う必要がある。

全体総括

当町の公共下水道事業は、前年度と比較するとやや悪化傾向にあり、総収益における繰入金金の割合が高いことなどの問題点がある。

また、単年度赤字収支や経費回収率100%未満等の課題もある。令和6年度からの法適化を見据え、料金改定など今後も更なる健全な経営を図っていくため、将来を見越した計画的な経営改善を行うことが急務である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。